

現場後代検定成績

長崎県但馬系種雄牛歴代1位

しんのすけ 『真乃介』について

全国的に高い知名度を誇る但馬系種雄牛「美津照重^{みつてるしげ}」を父に、脂肪交雑育種価の優れた「ひとみ」を母に持つ、但馬系の種雄牛「真乃介」号（平成28年1月21日生、松浦市志佐町産）の現場後代検定が終了しました。

検定成績は下表のとおりで、肉質において最も重要視される脂肪交雑がBMSナンバー10.0と本県但馬系種雄牛のうち歴代1位、さらに5等級率が100%となる好成績を収めました。

また、ロース芯面積については72.4cm²、歩留基準値76.0といずれも本県歴代1位を記録しました。

本県肉用牛の基本系統である気高系、但馬系、糸桜系の3系統のうち、全国トップクラスの但馬系種雄牛が加わることにより、県産種雄牛のラインナップが強化され、今後の肉用牛改良の促進と「長崎和牛」のさらなる品質向上が期待されます。

1. 現場後代検定成績（去勢）

区分	脂肪交雑 (BMSNo.)	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm ²)	バラの厚さ (cm)	歩留 基準値	5等級率 (%)	検定 頭数
真之介	10.0	492.4	72.4	8.5	76.0	100.0	10
県平均	7.5	505.7	63.5	8.2	74.5	43.8	—

※ 県平均：令和2年次長崎県内出荷黒毛和種肥育成績(去勢)平均値（(公社)日本食肉格付協会 HP）

2. 血統、枝肉成績等について

「真乃介」号

<本牛>



<血統>

(父牛)美津照重	}	美津照	—	美津福
		いつみ	—	美津福
(母牛)ひとみ	}	安福久	—	安福165の9
		さくらこ	—	勝忠平

<参考：検定牛の枝肉写真>

